

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-102785

(P2009-102785A)

(43) 公開日 平成21年5月14日(2009.5.14)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 1 D 1/22 (2006.01)	A 4 1 D 1/22 A	3 B 0 1 1
A 4 1 D 13/04 (2006.01)	A 4 1 D 13/04 A	

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2007-298634 (P2007-298634)
 (22) 出願日 平成19年10月22日(2007.10.22)

(特許庁注：以下のものは登録商標)

1. マジックテープ

(71) 出願人 507379887
 佐藤 雅枝
 埼玉県草加市北谷 3-10-5
 (72) 発明者 佐藤 雅枝
 埼玉県草加市北谷 3-10-5
 Fターム(参考) 3B011 BA05

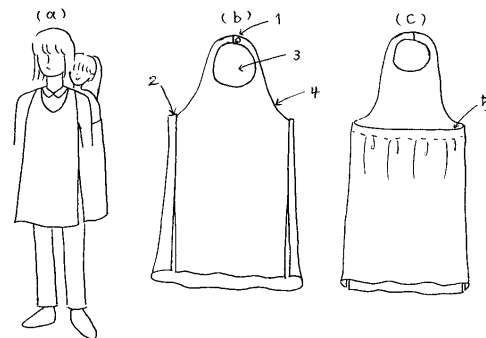
(54) 【発明の名称】 ママワンピース

(57) 【要約】

【課題】本発明は、おんぶ紐を使用して子供を背負う際に、おんぶ紐が露出せず、子供を外気から守り、家事中のエプロンとしても使用でき、装着が容易である。また、外出・室内着としても使用できる流行を考えたデザインのママワンピースを提供する。

【解決手段】前身頃はワンピースで、両脇から子供の背中を覆うように布を取り付ける。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

本発明はおんぶ紐を利用して子供を背負う際に母親が着るもので、おんぶ紐が露出させず、おんぶした時に母親の正面から見るとワンピースだが、防寒用に子供の背中から足元までを覆える布を取り付けたことを特徴とするママワンピースである。

【請求項 2】

両脇部分に留め具を付け、子供を覆っている布を取り外せることを特徴とするママワンピースである。

【請求項 3】

ママワンピースはエプロンとしても使用できる特徴を有する。

10

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、おんぶ紐を使用して子供を背負う際に、外気から子供を守り、おんぶ紐が露出せず、おんぶしながらの家事の際、エプロンとして使用できるもの。

【背景技術】**【0002】**

従来、子供をおんぶした時、外気から守るためにタオル等を子供の背中から足元にかけていた。さらにおんぶ時はエプロンを付けづらいし、従来型のおんぶ紐（胸元でクロスするおんぶ紐）は胸に食い込み見た目が悪いと敬遠されてきた。以前おんぶ用エプロンの提案があったようです。（特許文献 1・特許文献 2 参照）

20

【特許文献 1】実用新案登録第 2 5 7 3 3 6 0 号広報

【特許文献 2】実開平 1 - 8 3 0 0 8 号広報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

上記特許文献 1、2 は、いずれも胸元を隠しエプロンとしての用を足すだけのものである。これでは子供の暖は取れません。更にエプロン単独では使用できず、装着も複雑である。したがって、この発明の目的は、特許文献 1、2 を超越した物でなくてはなりません。まず、忙しい子育ての合間ですので装着の簡単さ、家事でも外出でも着用出来る便利さ、そして見た目の美しさ、デザインを楽しみおしゃれ感を忘れない、優雅で余裕さえ感じさせる子育てを目指すためにママワンピースを提供します。

30

【課題を解決するための手段】**【0004】**

前から見るとワンピースで、おんぶした子供の背中から足元にかけてすっぽりと覆う布を取り付ける。両脇部分と子供を覆う布は切り離せ、止め具を設ける。前身頃部分はエプロンとしても対応できる。以上を特徴とするママワンピースである。

【発明の効果】**【0005】**

本発明は、おんぶ紐を使用して子供を背負う際に、子供を外気から守れ、おんぶ紐が露出しない。着用方法は、図 1 の 3 を母親の首にかけ、2 の留め具を片方外し、5 で子供を覆い、再度留め具で元の場所に留めつけるだけの簡単なものである。またおしゃれ着などの生地を用いれば外出着としても利用でき、普段着用の生地ならばお散歩や、家の中での家事にもエプロンとして利用できる。更に前身ごろのワンピース部分は流行のデザイン等を取り入れると、おしゃれで優雅な感じになる。子育てに疲れた母親も明るい気持ちで外出が出来る。

40

【発明を実施するための最良の形態】**【0006】**

以下、本発明の実施形態について図面を参照して説明する。

図 1 は、本発明に係るママワンピースの着用の形態を示す図で、(a) は着用状態図、(

50

b) は前身頃部分、(c) は後身頃部分を示す図である。

図2の(a) は前身頃、(b) は後身頃を示す図である。

図3の(a)・(b) は、前後の着用の状態を示す図である。

【0007】

図1(b) について、1 は首にかける部分で取り外し可能である。留め具を用いるが、留め具の例はボタン・マジックテープ・リボン・スナップボタンなど、さまざまな留め具があり、必要に応じて選択して使用する。2 は脇部分が取り外しできる。こちらにも留め具を用いるが、1 のようにさまざまな留め具を必要に応じて選択して使用する。裾部分には留め具は使用しない。3 は頭を通す部分である。4 は前身頃で、流行に応じたデザインが考えられる。切り替え・ポケット・ギャザー・プリーツなどさまざまなデザインが考えられる。

10

図1(c) について、5 は伸縮性を持たせる。それにはゴム・紐などさまざまな材料が考えられるが、必要に応じて選択して使用する。後身頃は流行に応じたデザインが考えられる。切り替え・ポケット・ギャザー・プリーツなどさまざまなデザインが考えられる。

図2(a) について、前後身頃を離した状態で、前身頃である。1 は首にかける部分で外した状態である。2 は脇部分の留め具である。留め具は脇部分にだけ付ける。

図2(b) について、前後身頃を離した状態で、後身頃である。2 は脇部分で裏側に留め具が付いている。5 はゴム・紐などを用いて伸縮性を持たせる。

図3について、(a) は着用時の後から見た図である。(b) は着用時の前から見た図である。図3(b) の6 は、おんぶ紐(たすきがけ部分) がすっかり隠れる様子を示す図である。

20

【図面の簡単な説明】

【0008】

図1 は本発明の着用図と前後面図である。

図2 は本発明の分解図である。(a) は前身頃の説明図。(b) は後身頃の説明図。

図3 は本発明の着用図である。

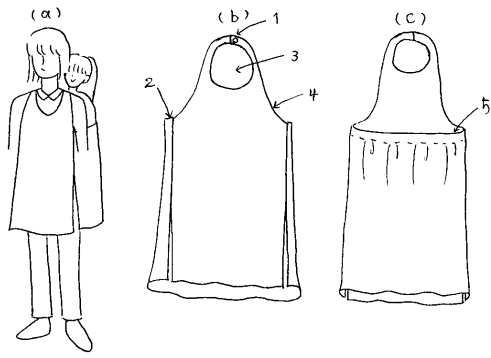
【符号の説明】

【0009】

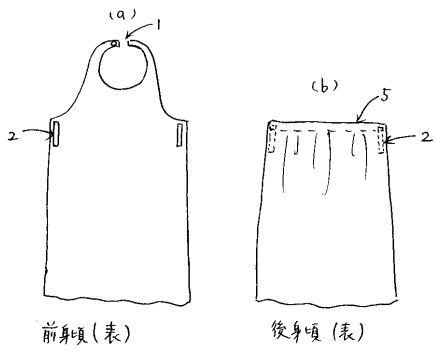
- 1 後首開口部
- 2 脇留め具付け位置
- 3 頭を通す所
- 4 前身頃
- 5 後身頃ゴム付け位置
- 6 おんぶ紐位置

30

【図 1】



【図 2】



前身頃(表)

後身頃(表)

【図 3】

